

校名：大阪教育大学附属天王寺小学校

所在地：〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 1-2-45 電話番号：06-6621-0123

記載日：2016年 6月26日 記載者：山手 隆文 記載者役職：副校長

本校の校風、特色について：

本校は、来年度創立140周年を迎えます。本校の教育目標は、「個が生きる学校」です。先生と子どもが最大の力を出し合いながら伸びていく学校を意味します。そのためには、互いに尊重し合う態度が必要ですし、信頼がなければ成り立ちません。そこで、「自他の人格を尊重し、実践力のある子」として、次のような子どもの姿を考えています。

- ・生命を尊重し、健康で安全につとめる子
- ・みんなと協力してしごとのできる子
- ・自分でよく考え、すすんで実行できる子
- ・ものごとを最後までやりとせる子
- ・きまりを守り、明るくくらせる子

以上のように、「すすんでとりくみ、ねばり強くやりとげる子」の育成をめざし、毎年2月には研究発表会を開催し、全国から先生方がたくさん参会者として来られ、本校の提案に対する貴重な意見をいただいています。

また、本校は、大阪教育大学に附属する小学校で、教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行うとともに、次のような特別な任務ももっています。

- ・大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行う。
- ・大学の教育実習期間として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行う。
- ・教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- ・現職教員に研修の場を提供する。

以上のように、本校では、「研究」と「実習」を使命として、毎年取り組んでいます。教育実習では、毎年、9月と11月にたくさんの学生を受け入れ、きめ細かい指導を先生方がしています。この実習での経験を生かし、数多くの学生は将来、教職の道へ進んでいます。また、研修の場としても依頼が来ることもあります。授業を見学してもらい、本校の取り組みについて、紹介することもあります。



貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていません。
- ② 卒業生の活躍状況の把握とその情報については、主に本校の同窓会（雛松会）によって、連絡や確認作業を実施しています。
- ③ 左藤 恵・・・元衆議院議員，元郵政大臣，元法務大臣
關 淳一・・・元大阪市長，日本WHO協会理事長
堀 正二・・・大阪府立成人病センター名誉総長，大阪対がん協会会長
渋谷天外・・・松竹新喜劇 喜劇俳優
植田啓一・・・沖縄美ら海水族館 獣医師，イルカ人工尾びれ開発
KRUG（前田）直子（伊央里直加）・・・元宝塚歌劇団 男役スター

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 本校のOBの先生方の名簿を毎年作成し、活躍状況を把握している。
- ② 毎年、年に一回は交流会を実施し、情報交換を行っている。
- ③ 本校から転勤後は、公立の小学校に転勤され、その後に教育委員会や教頭・校長などの管理職になられています。中には、私学の小学校、大学にも赴任され、活躍されています。また、本校で講師の経験をした教員の多くは、その後の採用試験に合格して、本校での経験を生かし、活躍をされています。

魅力ある、特色ある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1. 教科研究

本校では、毎年2月に研究発表会を実施している。学校のテーマを決め、そのテーマに基づいて、各教科で論を立て、提案をしています。毎年4月から研究部が提案し、先生方が校内の研究授業で討議を重ね、外部の方の意見も伺いながら進めています。参会者の方々が、少しでも自分の学校へ持ち帰り、実践できるようなものを提案することを心がけています。

2. 作品コンクール

本校では、毎年夏休みに課題として、子どもたちは作品コンクールに挑戦しています。各学年で挑戦できそうなものを選択し、応募をしています。一人でたくさんの作品コンクールに応募をする子、一つのを丁寧に仕上げる子など、さまざまです。中には、応募せずに自主的に自由研究に取り組んだり、自主的に家庭学習に取り組んだりする子もいます。2学期の初めには、各教室で掲示をして、学級の子どもたちや保護者の方が夏休みのそれぞれの子どもの取り組みのがんばりを目

にして、次回への意欲づけとなっています。

3. PTA活動

本校のPTA委員会やクラブ活動は、保護者の方が中心で自主的に活動をされています。委員会活動では、子どもたちがよりよい学校生活を送ることができるように、環境整備を行っていただいたり、親子のふれあう場を提供していただいたりしています。学校の正門付近のプランターの花の植え替え、親子清掃や親子ドッジボールの開催など、保護者の方々が中心となり、日々活動をされています。また、クラブ活動では、保護者同士の親睦を深めることを目的としながら、ソフトボール・バレーボールクラブの活動では、対外試合も実施しています。池田、平野、天王寺との三校交流戦など、他附属とのつながりも深め、保護者の方々が楽しんで活動をされています。

4. 学校行事

本校では、臨海学舎や学芸会の伝統的な行事もあれば、どの学校でも実施している行事もあります。特に、臨海学舎は長年続いている伝統的な行事です。5年生は300m、6年生は1000mを海で泳ぐために6月のプール開きから子どもたちはプール水泳に取り組みます。本校で大切にしているのは、300m、1000mという距離を一人で泳ぐのではなく、互いに励まし合い、助け合いながら泳ぎ切るということです。そのことを踏まえて、学校のプールでも隊形を整えて、声をかけ合いながら泳ぎ切る練習を繰り返しています。その距離を泳ぎ終えた子どもたちの姿がとてもたくましく、成長したと実感することができます。

また、毎年12月に行われる学芸会では、音楽（合奏、合唱）と劇を学級・学年で取り組みます。ここでも、学級全員で、学年

全員で、一つのものを作り上げることを大切にしています。一人ひとりの役割は違いますが、みんなで協力して練習を重ね、本番をむかえます。保護者の方々は学芸会当日にたくさん来場され、子どもたちのがんばる姿に感動をされています。

さらに、耐寒かけ足では、3学期の約2週間ほどですが、朝のわずかな時間を利用して取り組んでいます。ここでは、自分のペースで走りながらも、みんなと列になって、走る大切さを学びます。3学期は体育の授業の中でも取り組む学級が増え、子ど



もたちの体力向上をめざしています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

教員養成の役割として、年間約100名の教育実習生を受け入れています。その場では、将来教職の道へ進まない学生も、社会人としての資質を身につけることができるように先生方が指導しています。大学の授業の実践的な部分を担ったり、教職大学院生の研究授業を受け入れたりして、地域の中核となっています。

また、各教科の研究発表会の開催、教科によっては事務局の設置など、地域の教科指導の役割を果たしていると言えます。一年を通じて、各教科の研究会が開催されることが多く、本校の先生方もいろいろな経験を本校で積むことができ、やがては公立学校にて、活躍が期待されています。

さらに、本校での経験を生かし、多方面にわたり、指導講師と呼ばれたり、実践を発表したりするなどの機会があります。本校での研究活動を経験することで、教科の指導力を身につけることができ、教育者としての資質が磨かれていきます。その資質を磨かれた教員が、地域の学校や教育委員会へ採用され、それぞれの場所で活躍をしています。

このように、大学からの使命を果たし、研修の場としての存在であり、地域のニーズに合わせた活動をこれからも展開していきます。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校では毎年2月の研究発表会で、先進的な取り組みで提案授業を公開しています。また、実習校として、将来期待される教員の育成をめざして、先生方のきめ細かい、熱心な指導を心がけています。その中で、子どもたちは、我々の使命である「研究」と「実習」に深く関わり、日々成長しています。この子どもたちが、将来の日本を背負って立つような存在になるためには、附属学校の役割は大きいと感じています。小学校6年間の中で、たくさんの経験を積み上げて、卒業をしていくわけです。研究では、たくさんの参会者に見守られながら、堂々と意見を発表する子や交流をする子など、なかなか経験することができないものです。実習では、たくさんの実習生との人としての出会いがあります。そのような経験ができるのは、附属学校であるからこそできることであり、子どもたちの将来を考えますと、貴重な経験であると言えます。したがって、日本の将来を支えていく子どもたちの育成には、附属学校の存在が必要であり、これからも存在価値を発信していく必要があると考えます。